観光学部新入生の皆さんへ

2020年4月
観光学部長　小野良平

立教大学観光学部は2020年4月、観光学科189名、交流文化学科176名合わせて365名の新入生をお迎えしました。皆様の入学を学部の教職員、スタッフ一同、心より歓迎いたします。

本来であれば晴れやかな雰囲気の中で皆さんをお迎えしたかったところ、入学式を開くことができず、ガイダンス等も不自由をおかけしながら大学生活のスタートをお願いせざるを得ないことを大変心苦しく思っています。進学・合格決定後に、あるいは入試を迎えようというさなかに、予想もしなかった新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、その後もさらなる蔓延が懸念される中で活動がさまざまに制限され、先の見えない不安の中で入学の準備を進めてこられたことと思います。

とりわけ観光学部に入学の皆さんはこの間、近年成長産業とされてきた観光が、一転して厳しい逆風にさらされる事態を目の当たりにし、この先観光はどうなるのだろうか、本当に観光学部に進んで良かったのだろうか、と不安に思われる方も少なくないのではないでしょうか。確かに連日のように自粛要請が叫ばれる不要不急の行動、その典型が観光であることは否めません。しかしここは落ち着いて考えてみましょう。やや大げさに言えば、人類の歴史において、「不要不急」な行いが文化を生み、人間を人間らしくして来たのですから。どんな激動の時代を経ても人が芸術を残してきたのと同様、観光がなくなることはあり得ないことです。確かに現実の問題は厳しいものですが、大学での学びは現実に一喜一憂するのではない、じっくりと落ち着いて考えるところに意味があります。

観光は単に産業というだけでなく、人の移動と交流により、地域社会やそれをとりまく文化・環境に影響を与え、同時にそれらから影響を受ける、なかなか複雑な現象です。これらを多面的にじっくり学ぶことは、まさに急がば回れ、観光を深く理解し考えることができるようになり、豊かな社会の真の担い手となることにつながります。立教大学観光学部ではこうした皆さんの学びが達成されるよう、教職員、スタッフがナビゲーションとサポートを努めます。最初からのインターネットでの授業など、いましばらく負担や不自由をおかけすることも少なくないと思いますが、皆さんと一日でも早くオフラインの新座キャンパスでお会いできること、そして皆さんそれぞれが有意義な大学生活を進められることを願っています。